

2 学校教育に関する意識調査 結果概要

調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、学校教育推進計画の策定の検討資料を得るため、児童生徒、保護者、一般市民及び教員の学校教育に対する基本的な意識・実態等を把握することを目的とする。

2. 調査方法

- ・ 調査区域：千葉市全域
- ・ 調査対象及び回収方法

調査種別		調査の対象	調査の方法
児童・生徒調査	小学生調査	①対象校 各区から対象校3校を無作為抽出(全18校) ②対象者 第5学年から1クラスを無作為抽出	学校を通じて 依頼・回収
	中学生調査	①対象校 各区から対象校3校を無作為抽出(全18校) ②対象者 第2学年から1クラスを無作為抽出	
	高校生調査	①対象校 千葉高校、稲毛高校 ②対象者 第1～3学年から各1クラスを無作為抽出	
保護者調査		①対象校 小・中学生調査の対象校(36校) ②対象者 小中学生調査の対象児童生徒の保護者	
一般市民調査		①対象者 無作為抽出した市内在住の20歳以上の男女(1,800人)	郵送による 配付・回収
教員調査		①対象校 小・中学生調査の対象校から各区1校を抽出(12校)、稲毛高校(全13校) ②対象者 対象校の教員	学校を通じて 依頼・回収

- ・ 標 本 数：4, 6 0 3 人
- ・ 調査期間：平成19年9月25日～10月15日

1. 「千葉市の目指すべき子どもの姿」に係る調査結果の概要

【育みたい子ども像】

将来どんな大人になってほしいか	保護者 (n=1020)	どんな子どもに育まれてほしいか	一般市民 (n=877)	教員 (n=346)
人を思いやる心を持っている人	74.0	人を思いやる心を持っている子ども	85.1	87.0
困難を乗り越えられる人	59.5	社会のルールやマナーを守れる子ども	70.5	63.3
自分らしさを持っている人	49.3	最後まであきらめずに取り組む子ども	45.2	57.8
友達や仲間がたくさんいる人	42.1	友達がたくさんいる子ども	44.7	25.1
家族を大切にする人	38.7	目標に向かって努力する子ども	44.5	55.5
社会のきまりを守る人	35.1	自然を大切にできる子ども	32.6	14.7
健康で体力に自信がある人	26.8	規則正しい生活習慣が身についている子ども	25.0	37.0
夢を実現するために、最後まであきらめない人	26.3	学ぶ意欲のある子ども	17.3	29.2

《調査の結果》

「育みたい子ども像」について、保護者、市民、教員ともに「人を思いやる心を持っている人に育まれてほしい」とする回答が最も多かった。

上位8項目

【子ども自身が抱く将来像】

	小学生 (n=524)	中学生 (n=567)	高校生 (n=228)
友だちや仲間がたくさんいる人	46.9	54.0	45.2
家族を大切にできる人	45.8	31.7	24.1
夢を実現するために、最後まであきらめない人	39.9	28.4	27.6
健康で体力に自信がある人	32.8	19.2	15.4
自分らしさを持っている人	32.1	50.4	54.4
常に努力をする人	28.4	29.1	32.0
人を思いやる心をもっている人	28.1	36.2	39.0
得意なことをたくさん持っている人	26.1	21.0	19.7
困難を乗り越えられる人	19.7	24.7	30.3
社会のきまりを守る人	17.2	23.3	13.2
新しいことに取り組もうとする人	15.6	11.5	11.4
海外で活躍する人	11.3	6.7	15.8
社会の役に立てる人	10.3	12.7	13.2
リーダーとして活躍する人	7.6	6.0	5.3
その他	3.1	3.7	4.8
わからない	2.3	2.1	1.8
無回答	2.1	2.1	3.1

《調査の結果》

子ども自身が抱く将来像では、小・中学生では「友だちや仲間がたくさんいる人」、高校生は「自分らしさを持っている人」の回答が最も多かった。

また、「リーダーとして活躍したい」「社会の役に立てる人になりたい」の回答率が低かったのが特徴的であった。

1. 千葉市の目指すべき子どもの姿

調査結果から見えること

○「育みたい子ども像」として、保護者・市民・教員ともに、「人を思いやる心をもった人になってほしい」と回答した割合が極めて高くなっている。また、「最後まであきらめない人」や「困難を乗り越えられる人」になってほしいとの思いも共通している。

子ども自身が描く将来像については、小・中・高校生で傾向に違いは見られるものの、「友達や仲間がたくさんいる人になりたい」「自分らしさを持った人になりたい」としている割合は、共通して高くなっている。また、「夢を実現するために、最後まであきらめない人」等を挙げた割合も比較的高い。

一方、「リーダーとして活躍する人」や「海外で活躍する人」、「新しいことに取り組もうとする人」を挙げた割合はかなり低くなっており、消極的な傾向が見られた。

このことから、子ども一人ひとりが自分の思いや考えを持つとともに、夢や希望を見出し、それらを実現していくことの喜びを実感できるような教育を進めていくことが大切である。

2. 「確かな学力」に係る調査結果の概要

【学校に期待すること】

小学生(n=524)	
コンピューターを使った授業をたくさんしてほしい	66.0
自分の学校だけの特色ある活動をしてほしい	49.8
苦手なスポーツをできるようにしてほしい	36.6
「総合の時間」をもっとたくさんしてほしい	36.5
英語の授業などをたくさんしてほしい	29.2
中学生(n=567)	
選択できる授業を増やしてほしい	45.7
コンピューターを使った授業をしてほしい	45.3
スポーツの持ち楽しさに十分触れさせてほしい	39.0
社会体験活動をたくさんしてほしい	38.6
特色のある活動をしてほしい	36.7
高校生(n=228)	
受験に役立つような授業をしてほしい	53.5
学校施設や設備の改善、教材や備品等の充実をしてほしい	44.7
基礎的な知識をしっかりと教えてほしい	35.5
英語の授業を更に充実させてほしい	27.6
ホームステイや体験入学を通じ、実践的な語学力を身につけてほしい	25.4
上位5項目	

	保護者 (n=1020)	一般市民 (n=877)
①道徳観や社会のマナー・ルールを身につけさせる	82.5	79.0
②公正な判断力を身につけさせる	80.5	77.1
③自然や環境の大切さを教える	79.1	80.8
④日本の文化を理解し、尊重する気持ちを養う	75.0	77.7
⑤国際的な感覚を身につけ国際文化を理解させる	65.9	69.0
⑥家族と家庭の役割に関する基礎的な理解を養う	45.1	42.5
⑦読書に親しませ、国語の基礎的な能力を養う	82.4	80.2
⑧基礎的な数学的なものの見方や考え方を養う	87.9	85.0
⑨基礎的な科学的なものの見方や考え方を養う	86.2	82.8
⑩体力を養い、心身ともに健やかな体をつくる	84.4	82.1
⑪音楽・美術などの芸術について理解を深める	78.4	73.1
⑫働くことの大切さを教える	71.8	69.0
⑬将来について考える力を養う	79.3	75.4
「とても期待する」と「まあ期待する」の合計値		

《調査の結果》

「学校に期待すること」について、大人と子どもの傾向に意識の差が見られた。確かな学力面でいうと、大人は「基礎的なものの見方や考え方を養う」ことについて期待が高い。

【教わりたい先生】

	小学生 (n=524)	中学生 (n=567)	高校生 (n=228)	保護者 (n=1020)	一般市民 (n=877)	教員 (n=346)
わかりやすい授業をしてくれる	51.3	59.6	75.0	62.3	60.0	60.7
社会のきまりや守るべきことを教えてくれる	10.5	9.0	4.4	49.4	50.7	37.0
自分たちのことをわかってくれる	33.6	31.0	34.6	47.9	48.9	17.6
やる気にさせてくれる	30.2	30.2	43.0	39.5	29.6	37.9
誰にでも公平に接してくれる	29.8	36.3	29.4	37.4	28.7	69.7
何でもいっしょになってやってくれる	12.4	11.5	12.3	21.3	18.6	30.3
放課後や休み時間に、よく話をしてくれる	11.3	20.1	15.4	13.0	24.4	17.3
自分の目標や手本になってくれる	10.9	6.0	6.1	11.1	10.7	11.6
何でもよく知っている	13.7	58.0	34.6	6.1	7.2	4.3
クラスを楽しい雰囲気にしてくれる	66.0	7.2	6.6	1.0	3.4	1.4
その他	4.0	2.1	3.9	0.4	0.3	0.6
わからない	4.2	2.8	2.2	1.2	1.4	1.4
無回答	3.1	3.5	3.5			

《調査の結果》

小・中学生の「教わりたい先生」は「わかりやすく授業してくれる先生に教わりたい」という意識が最も高かった。

【勉強する理由】

	小学生 (n=524)	中学生 (n=567)	高校生 (n=228)
将来何かの役に立つと思うから	42.7	36.8	21.5
わからなかったことが、わかるようになるから	35.5	23.9	9.2
新しいことを知ることができるから	29.2	15.7	22.4
立派な大人になりたいから	24.2	15.3	11.0
高校や大学に行きたいから	19.8	48.4	58.3
やりたい仕事があるから	13.7	14.8	25.4
先生や親から勉強しなさいと言われるから	7.6	12.3	5.3
勉強が好きだから	5.3	1.1	0.9
友だちに負けたくないから	4.4	8.5	3.9
その他	2.9	3.9	2.2
わからない	4.8	5.5	5.7
無回答	1.3	2.5	3.9

《調査の結果》

「勉強する理由」について、「勉強が好きだから」の回答率が低い。

2. 確かな学力

調査結果からみえること

【「確かな学力」の育成】・【学習意欲の向上】

- 保護者・市民が「学校に期待すること」として、「数学的見方・考え方や科学的見方・考え方を育てること」、「読書に親しませ、国語の基礎的な能力を養うこと」を挙げた割合が極めて高くなっている。このことから、保護者・市民は、様々な学びの基礎となる「ものの見方・考え方の育成や国語力の育成」などを学校に期待していることが窺える。
- 児童生徒が「学校に期待すること」として、「コンピューターを使った授業」等を挙げていることから、授業を行うに当たっては、こういった子どもたちの思いも考慮しながら、指導方法を工夫していく必要がある。
- 小学生～中学生～高校生と年齢が高くなるにつれて「基礎的・基本的な能力を身に付けさせてほしい」と考える割合が上昇している。また、「勉強する理由」について、「高校や大学に行きたいから」「わからなかったことがわかるようになるから」「将来役に立つから」など、自分なりの考えを持っている。一方、同じく「勉強する理由」について「勉強が好きだから」と回答した割合は、小・中・高校生ともに極めて低く、「学習する態度が身についている」とした割合や「好奇心」についても年齢が進むにつれて低下している。これらのことから、学習意欲の向上に当たっては、勉強そのものの楽しさやよさを味わえるような指導の工夫、発達段階を考慮した「好奇心を引き出していく指導」などを一層充実させていく必要がある。

【授業の充実】

- 子どもは教員に対し「わかりやすい授業」を最も期待している。子どもが「わかった、できた」と思える授業づくりや一人ひとりに応じたきめ細かな指導等をおして、学習意欲の一層の向上と基礎基本の定着を図っていく必要がある。

3. 「豊かな心」に係る調査結果の概要

【子どものマナー意識】

	小学生 (n=524)			中学生 (n=567)			高校生 (n=228)		
	よくないと思う	別にいいと思う	わからない	よくないと思う	別にいいと思う	わからない	よくないと思う	別にいいと思う	わからない
①約束やルールを守らない	81.5	11.6	6.5	75.1	15.9	7.6	77.2	12.7	6.1
②電車の中で騒ぐ、床に座り込む	87.2	6.7	5.3	79.7	12.9	5.8	81.1	11.0	3.5
③電車の中で携帯電話を使う	62.0	27.5	9.7	45.7	40.2	12.5	37.3	50.0	8.8
④注意されると無視したり、反抗したりする	85.9	7.3	6.5	73.4	15.0	10.1	70.6	15.8	9.6
⑤友だちの悪口を言ったり、いじめたりする	88.0	5.3	5.7	79.9	10.1	8.5	81.6	8.3	6.6
⑥遊ぶために夜遅く出かける	80.5	11.8	7.1	54.1	29.8	14.5	27.6	57.5	10.5

《調査の結果》

「マナー意識」について、年齢が上がるにつれ「規範意識」が低下する傾向がみられた。特に小学生と中学生の間に意識の違いが明らかとなった。

【子どもの悩み】

悩んでいること			
	小学生 (n=524)	中学生 (n=567)	高校生 (n=228)
友だちのこと	21.8	24.0	20.2
学校のこと	9.5	14.3	11.4
勉強のこと	27.9	50.3	57.0
家族のこと	10.1	12.0	12.3
将来のこと	25.0	42.5	59.6
からだのこと	16.0	8.1	9.6
異性のこと	5.7	6.2	11.0
その他	1.3	5.1	5.7
悩みはない	42.4	23.5	11.4
無回答	0.2	1.6	1.3

相談する相手	小学生 (n=524)	中学生 (n=567)	高校生 (n=228)
親	70.4	51.5	40.8
友だち	52.1	73.5	73.7
学校の先生	20.0	13.8	5.3
兄弟姉妹	19.3	13.1	14.5
祖父母	13.7	5.3	2.2
インターネットを使って	4.0	5.1	3.9
親戚の大人	3.8	1.2	3.1
塾や習い事(予備校)の先生	3.6	5.5	7.0
電話相談ダイヤル	1.3	0.5	0.0
教育センター	1.1	0.2	0.0
近所の人	0.6	0.2	1.3
養護教育センター	0.6	0.2	0.0
その他	3.4	4.1	5.3
相談する人がいない	5.5	6.0	6.6
無回答	1.5	1.1	2.6

子どもについて理解していると思うもの

保護者(n=1020)

健康状態	92.6
興味や関心のあること	76.2
友だちのこと	53.8
勉強のこと	52.8
学校での生活	33.1
将来の夢や進路	28.2
悩み	14.1
異性のこと	8.4
その他	0.9
わからない	1.2
無回答	1.4

《調査の結果》

子どもの「悩み」の実態について、中・高校生の「悩み」は「進学」「勉強」であった。

相談相手について見ると、小学生は「親」、中・高校生は「友だち」とする回答が多かった中、相談相手がないとする回答も6%前後あったことが注目される。

調査結果からみえること

調査結果からみえること

【道徳教育等の充実】

- 「学校に期待すること」(P75)について、保護者、市民ともに「道徳観や社会のマナー・ルールを身につけさせる」、「公正な判断力を身につけさせる」と回答している割合が比較的高くなっている。また、「育みたい子ども像」(P74)では、「社会のルールやマナーを守れる子どもになってほしい」とする市民・教員の割合が高くなっている。一方、子どもの意識として、小・中・高校生と年齢が進むにつれてマナー意識に低下傾向が見られる。こういったことから、道徳教育をはじめ、様々な交流活動や自然体験活動等をとおして、思いやりの心の大切さを学び取らせるとともに、規範意識や公共心をより一層育む取組みを充実させていく必要がある。

【キャリア教育の充実】

- 「子ども自身が抱く将来像」(P74)について、「リーダーとして活躍する人」や「社会の役に立てる人」、「新しいことに取り組める人」になりたいと回答している割合が低いことや、「勉強する理由」(P76)について、中・高校生においても「やりたい仕事があるから」や「立派な大人になりたいから」とする割合が低いことから、子どもたちが将来への夢や希望を持てるような取組みを進めていくことが大切である。そのためには、キャリア教育をとおして、「働くこと」への関心や意欲の向上を図るとともに、発達段階に応じた指導を行う必要がある。

【情報モラル教育の推進】

- 小・中学生では、コンピューターを使った授業をしてほしいという意識が高い(「学校に期待すること」P75)が、携帯電話の使い方などのマナー意識が低いことや、メディア上の有害情報に端を発する様々な問題が生じていることから、情報通信の発達による負の部分に対応した教育が必要である。

【教育相談の充実】

- 「子どもの悩み」について、小学生では「悩みはない」とする割合が4割を超えている。一方で、勉強や将来のこと、友達のことなどで悩んでいる子どもも多く、また、「相談相手がいない」とする小・中・高校生も少数ながらいることから、教育相談の更なる充実が望まれる。

4. 「体力の向上」に係る調査結果の概要

【子どもの印象】

	小学生 (n=524)	中学生 (n=567)	高校生 (n=228)	保護者 (n=1020)	一般市民 (n=877)	教員 (n=346)
①明るく元気だ	75.4	64.9	62.7	76.3	50.0	67.7
②自分らしさをもっている	48.7	37.4	47.0	65.1	36.5	41.6
③やさしさや思いやりがある	56.3	42.7	50.8	69.5	34.0	41.6
④やる気がある	65.1	50.0	46.9	48.7	23.4	32.7
⑤自分の気持ちをコントロールできる	55.3	49.9	52.7	44.2	16.3	17.1
⑥粘り強く、最後までやりとげる	58.0	42.9	43.8	39.4	13.4	14.7
⑦まじめに取り組むことができる	53.4	46.8	55.3	61.3	32.8	49.4
⑧自分の気持ちを相手にうまく伝えられる	42.6	31.4	29.0	28.4	19.6	10.7
⑨体力がある	76.9	68.3	67.6	47.8	19.5	10.4
⑩自分ひとりで選択や判断をする力がある	57.7	50.3	56.6	34.8	17.7	11.3
⑪社会の役に立とうとする気持ちがある	74.7	57.7	69.3	38.7	16.2	16.5
⑫社会のきまりや約束したことを守っている	60.5	53.1	55.7	61.2	28.5	33.6
⑬人間関係を築くのが上手である(友達と仲良くしている)	93.3	88.5	85.5	41.1	17.1	9.0
⑭食事や睡眠など、規則正しい生活をしている	64.6	50.7	40.8	48.7	19.4	25.1
⑮好奇心旺盛で様々なことに興味をもっている	54.4	37.5	37.7	54.6	44.8	43.1
⑯学習する態度が身についている	52.3	26.8	29.4	38.7	22.4	28.9
⑰家族のことを理解している	75.0	52.2	43.9	64.2		37.0
⑱家族が子どものことを理解していると感じている	78.7	52.7	48.6	61.5		27.8

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計値

《調査の結果》

体力面に関する「子どもの印象」において、教員・一般市民は「子どもは体力がない」という回答が多いが、子どもに対する調査では「体力がある」という回答が多かった。子どもと教員等の間に意識の違いが見られた。

4. 体力の向上

【規則正しい生活習慣の定着】

○規則正しい生活をしていると感じているかどうかについては、大人と子どもとの意識に差が見られる。特に市民や教員の肯定的な回答の割合が低く保護者も他の調査項目に比べると低くなっている。

このことから、学校と家庭との連携をもとに、規則正しい生活習慣について、子どもたちに意識化を図り、実践化できるようにしていくことが大切である。

【体力の向上】

○スポーツや体を動かすことが好きだと感じている子どもは多く、運動すること自体を敬遠している様子は見られない。一方、実態として放課後や休日にスポーツをして過ごしている子どもが少ないことや、教員の多くが「子どもの体力が低下している」と捉えていることから、運動することの楽しさをより一層味わわせたり、進んで体を動かす習慣を身につけさせたりすることにより、運動に対する意欲を高め、体力の向上を図っていくことが大切である。

調査結果からみえること

5. 「教員の資質向上」に係る調査結果の概要

【教員の資質向上に必要なこと】

	保護者 (n=1020)	一般市民 (n=877)	教員 (n=346)
①民間人等多様な人材の採用	53.7	54.6	26.0
②意欲や熱意のある人材の採用	88.1	87.5	90.2
③採用面接の重視	73.2	70.7	67.1
④新任研修の充実	78.6	77.1	53.2
⑤一定期間ごとの研修の実施	76.9	76.1	45.9
⑥他業種への派遣研修の充実	47.9	50.1	33.8
⑦教員が授業に集中できるような環境の整備	70.1	75.4	92.5

「必要」と「どちらかといえば必要」の合計値

《調査の結果》

「教員の資質向上に必要なこと」について、保護者・一般市民では「意欲や熱意のある人材の採用」の回答が最も多く、教員は「教員が授業に集中できるような環境の整備」の回答が最も多かった。その中で、「民間人等多様な人材の採用」「他業種への派遣研修の充実」の回答が比較的低かったのが、特徴的であった。

【日々の業務について感じること（学校種別）】

	小学校 (n=156)	中学校 (n=142)	高等学校 (n=48)
①子どもを理解することが、これまで以上に難しくなった	62.9	55.7	62.5
②授業準備や教材研究等に費やす時間がとれない	84.0	78.2	66.6
③教育的な支援を必要とする子どもが多くなり、対応に苦慮している	71.8	84.5	43.8
④子どもの授業態度やマナーが悪化している	59.6	54.9	60.4
⑤子どもの問題行動にどこまで対応すべきか迷うことが多くなった	53.2	60.6	41.7
⑥保護者への対応に悩むことが多くなった	60.2	64.0	39.6
⑦家庭訪問や外部連携会議、見回りなどの対応で学校を離れることが多くなった	18.6	28.8	12.6
⑧授業に関すること以外の事務的な作業が増えた	62.1	71.9	81.2
⑨教員間の仕事の分担や業務量に差がある	55.2	64.0	87.5
⑩教員は仕事と生活の両立が難しいと感じる	53.2	58.5	60.5
⑪職場内での人間関係で、悩み事が増えた	23.7	21.1	33.3

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計値

【日々の業務について感じること（在職年数別）】

	10年未満 (n=94)	10年以上 20年未満 (n=47)	20年以上 30年未満 (n=139)	30年以上 (n=61)
①子どもを理解することが、これまで以上に難しくなった	37.3	63.9	73.4	59.0
②授業準備や教材研究等に費やす時間がとれない	80.9	87.2	76.3	77.0
③教育的な支援を必要とする子どもが多くなり、対応に苦慮している	55.3	76.6	82.7	78.7
④子どもの授業態度やマナーが悪化している	44.7	57.4	64.0	62.3
⑤子どもの問題行動にどこまで対応すべきか迷うことが多くなった	45.7	51.0	62.5	54.1
⑥保護者への対応に悩むことが多くなった	39.4	66.0	69.7	60.6
⑦家庭訪問や外部連携会議、見回りなどの対応で学校を離れることが多くなった	11.7	31.9	23.7	26.3
⑧授業に関すること以外の事務的な作業が増えた	58.5	63.8	78.5	65.6
⑨教員間の仕事の分担や業務量に差がある	62.8	59.5	64.0	63.9
⑩教員は仕事と生活の両立が難しいと感じる	49.0	59.6	61.8	50.9
⑪職場内での人間関係で、悩み事が増えた	21.2	29.8	25.9	18.0

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計値

《調査の結果》

「日々の業務に感じていること」を在職年数別にみると、他の層と比較して20年以上30年未満の層がより不安等を抱えている傾向が見られた。

「日々の業務に感じていること」を学校種別にみると、小学校よりも中学校・高校の方が不安等をより感じている傾向が見られた。

5. 教員の資質向上

調査結果からみえること

【意欲ある教員の育成と確保】

- 「教員の資質向上に必要なこと」として、「意欲や熱意のある人材の採用」を挙げた割合が、保護者・市民ともに最も高くなっており、教員も9割以上となっている。また、「採用面接の重視」や「新任研修の充実」を挙げている割合もかなり高いことから、教職員インターンシップの更なる充実等により、意欲ある教員を育てるとともに、優秀な教員の確保に今後も一層努めていく必要がある。

【研修の充実】・【教員が子どもの指導に専念できる環境づくり】

- 「教員の資質向上に必要なこと」として、保護者・市民の約8割が「一定期間ごとの研修の実施」を挙げているのに対して、教員は5割以下となっている。一方で、教員の9割以上が「教員の資質向上に必要なこと」として、「授業に集中できるような環境の整備」を挙げている。また、特に若年層に「授業準備や教材研究等に費やす時間が取れない」と感じている割合が高いことや、経験20年以上の教員に「教育的支援を必要とする子どもが多くなり対応に苦慮している」と回答した割合が高くなっている。さらに、経験年数20年以上30年未満の層で、不安等を抱えている割合の高い項目が多いことも明らかになった。これらのことから、いわゆるベテラン教員を対象とした研修をはじめ、教員のライフステージに応じた研修の内容や方法について、さらに工夫・改善を図り、意欲的に研修に取り組む中で指導力や資質の向上が図れるようにしていくことが大切である。同時に、教員が、授業等子どもの指導に専念できるよう何らかの改善を図っていく必要がある。

6. 「教育環境の充実」に係る調査結果の概要

【保護者の感じる学校教育に関する満足度】

学校に対する満足度(保護者)	
小学校	
小規模(n=144)	63.2
適正規模・準適正規模(n=176)	63
大規模(n=177)	59.3
中学校	
小規模(n=156)	46.2
適正規模(n=191)	59.7
準適正規模(n=176)	51.2

《調査の結果》

学校教育に対する満足度を規模別にみると、小学校は大規模校の満足度が低く、中学校では小規模校の満足度が低いことが明らかとなった。

「十分満足している」と「まあ満足している」の合計値

【保護者の感じる施設充実度】

施設の充実度(保護者)	
小学校	
小規模(n=144)	42.4
適正規模・準適正規模(n=176)	43.2
大規模(n=177)	51.4
中学校	
小規模(n=156)	28.2
適正規模(n=191)	49.2
準適正規模(n=176)	37.5

《調査の結果》

保護者の感じる「施設充実度」に関して、中学校についての肯定的な回答の割合が小学校と比べ低くなっている。

保護者の学校教育に対する満足度が、小・中学校ともに比較的高いのに比べ、学校施設については全体としての評価が低くなっている。

「充実している」と「やや充実している」の合計値

6. 教育環境の充実

調査結果からみえること

【学校の施設設備】

○施設設備について、「充実している」と受け止めている保護者の割合が全体的に低く、小学校に比べ中学校での肯定的な回答の割合が低くなっている。各学校の築年数等による校舎の現況に関する印象が、回答に反映しているものと思われる。

【子ども一人ひとりへの教育的支援】

○ 教育的な支援を必要とする子どもが増加しており、子どもの意識も保護者の意識も多様化しているため、教員が子どもにどう対応していいのか苦慮している面が伺える。（「教員が日々の業務に感じていること」(P80)の調査結果より）また、「学校が今後取り組むべきこと」(P83)として、保護者や市民の9割以上が、「授業の質の向上や問題行動への対応などには、教員個人だけではなく学校全体で取り組むようにする」と回答していることから、学校運営の組織化等をさらに進めていくことが大切である。

7. 「学校・家庭・地域の連携」に係る調査結果の概要

【学校・家庭・地域の役割分担】

	保護者(n=1020)			一般市民(n=877)			教員(n=346)		
	家庭	学校	地域	家庭	学校	地域	家庭	学校	地域
①規律ある生活や基本的な生活習慣	94.7	2.6	0.2	94.2	1.9	0.2	94.2	3.8	0.3
②我慢する気持ちを持つこと	89.5	7.5	0.2	89.5	6.5	0.3	85.0	13.3	0.0
③読み、書き、計算など日常生活に必要な基礎的・基本的な知識や技能	11.1	86.5	0.1	8.9	87.8	0.1	2.6	95.4	0.0
④生涯にわたって自分で学んでいけるための学び方や学ぶ意欲	26.1	67.7	3.1	24.3	65.8	5.1	9.8	74.3	13.0
⑤社会生活を営む上で必要な態度や能力	35.0	49.2	12.5	36.0	40.7	19.3	26.6	53.2	17.3
⑥物事の善悪を判断する力を持ち社会のルールを守ること	77.9	7.5	11.4	70.7	11.3	13.8	64.5	14.7	18.5

《調査の結果》

「学校・家庭・地域」の役割分担に関する意識について、学校：「学びの場」、家庭：「基本的な生活習慣や忍耐力を育む場」、地域：「ルールやマナーを守らない子への注意」「子どもへの挨拶・声かけ」など。

【学校が今後取り組むべきこと】

	保護者 (n=1020)	一般市民 (n=877)
①これまで以上に特色ある教育活動・学校づくりを進める	64.7	50.9
②子どもの実態に応じた学校づくりを進める	73.6	70.1
③指導力の高い教員を増やしていく	82.4	81.0
④授業の質の向上や問題行動への対応などには、教員個人だけではなく学校全体でも取り組むようにする	92.2	90.1
⑤地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進める	74.0	72.7
⑥学校が子どもの教育だけでなく、地域の人が学べる拠点としての役割を持つようにしていく	50.6	51.5

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計値

《調査の結果》

「学校が今後取り組むべきこと」として、「地域との連携を深める」の回答率が74%あった。
保護者・一般市民とも「学校と地域とのかかわり合いを進めていく」（肯定的意見）とする回答率が高かった。

【地域でできること】

	保護者 (n=1020)	一般市民 (n=877)
ルールやマナーを守らない子どもへの注意	60.0	66.4
地域の子どものあいさつや声かけ	69.8	71.7
学区の安全を守る巡回活動への協力	53.0	49.0
運動会や文化祭などの学校行事への参加・協力	30.9	23.8
学校や学校周辺の美化・清掃活動への参加・協力	29.9	35.8
特技や能力を生かした授業への協力	23.6	24.7
学校との情報交換や話し合いなどへの参加	22.3	21.7
クラブ活動・部活動などの指導の協力	20.5	17.2
その他	1.3	1.4
無回答	1.6	2.5

《調査の結果》

「地域でできること」については、回答率に特に低い項目がなかったのが特徴的である。

7. 学校・家庭・地域の連携

調査結果からみえること

【学校・家庭・地域の役割の確認と連携の強化】

○役割分担において、家庭と学校の役割については、保護者・市民・教員間に、意識の一致が見られる。また、地域の役割については、「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」や「地域の子どもへのあいさつや声がけ」、「学区の安全を守る巡回活動への協力」を挙げた保護者・市民が多い。

○保護者は、家庭と学校の役割をある程度認識しているが、学校でもマナー教育やしつけを行ってほしいという声も比較的多い（「学校に期待すること」(P75)の調査結果から）ことから、この点も含めて、学校と家庭の役割について、様々な機会や場を通じて再確認を行うとともに、学校と家庭、地域が連携して教育に当たれるような環境づくりが必要であると思われる。

【学校・家庭・地域が一体となった教育活動の推進と特色ある学校づくり】

○保護者、市民調査の「学校が今後取り組むべきこと」では、「地域との連携・協力を一層深め、地域の教育力を生かした学校づくりを進めること」や「子どもの実態に応じた学校づくりを進めること」が7割以上となっている。また、「これまで以上に特色ある学校づくりを進めること」とする保護者の回答も6割を超えている。

このことから、学校・家庭・地域が一体となった教育活動の推進や、地域特性や学校の実態等を踏まえた、着実な教育活動の一層の展開が期待される。

【学校支援に向けた学校・家庭・地域の連携】

○「地域でできること」について、子どもへの声がけや注意、安全の見守りだけではなく、「特技や能力を生かした授業への協力」や「学校行事への参加」、「クラブ活動・部活動などの指導の協力」を挙げている保護者、市民もそれほど高い割合ではないものの、2割～3割程度いる。また、「学校と地域のかかわり合いをますます進めるべき」と考える市民も多い。このことから、様々な面で保護者や地域が学校の取組みを支援していけるような、学校・家庭・地域の連携のあり方について検討していく必要がある。